

「水資源と男女共同参画に関するアンケート」最終報告

水資源・地域プロジェクト課では、水資源の確保と水道水の供給に関して、県民の皆様安心してお使いいただける水を、安定的に供給することに心掛けており、今後の施策の参考とするため、水資源に関するアンケートを実施しました。

また、男女共同参画・NPO課では、一人ひとりが性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現に向けて、女性の活躍推進の取組を効果的に進めるため、男女共同参画に関するアンケートを実施しました。

結果、764名の方からご回答をいただきました。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さんにはお礼を申し上げますとともに、その結果について下記のとおり取りまとめましたので、ご報告いたします。

(1) アンケート実施期間

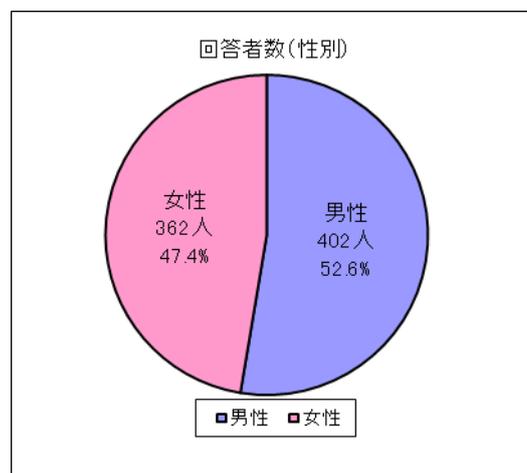
平成28年2月4日(木)～2月18日(木)

(2) アンケート回収状況

対象者数 1,206人

回答者数 764人

回答率 63.3%

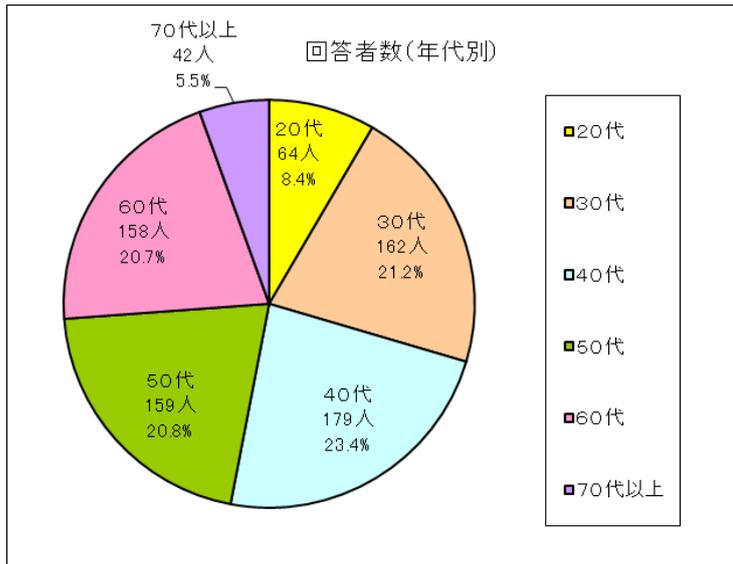


(3) 回答者属性 (人)

【性別】	男性	女性	計
回答者数	402	362	764
構成比	52.6%	47.4%	100.0%

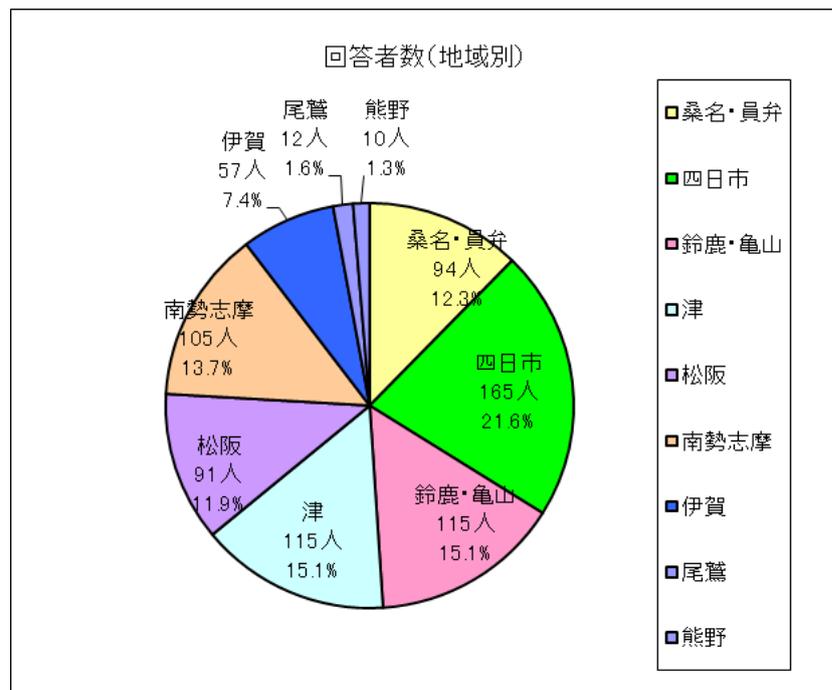
(人)

【年代別】	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
回答者数	64	162	179	159	158	42	764
構成比	8.4%	21.2%	23.4%	20.8%	20.7%	5.5%	100.0%



(人)

【地域別】	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	津	松阪	南勢志摩	伊賀	尾鷲	熊野	計
回答者数	94	165	115	115	91	105	57	12	10	764
構成比	12.3%	21.6%	15.1%	15.1%	11.9%	13.7%	7.4%	1.6%	1.3%	100.0%



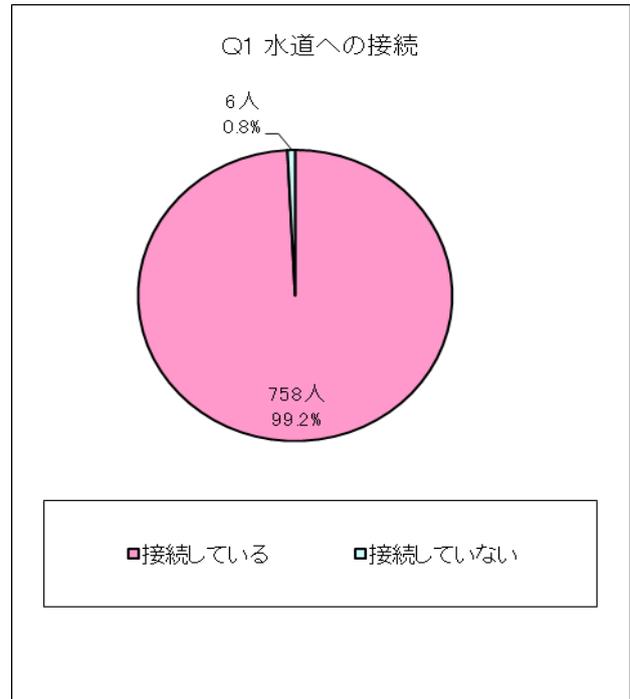
(4) アンケート集計結果

Q1～Q5は、水資源についての設問です。

Q1. 水道への接続

あなたの現在のお住まいは水道
(市町や民間が設置したもの)に
接続されていますか？

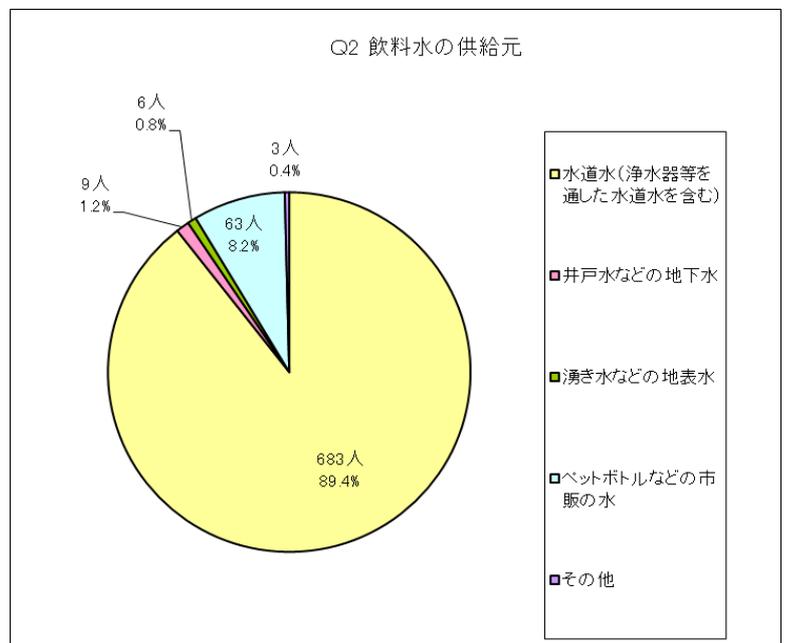
水道の接続は99.2%の758人の方が接続しています。三重県の水道普及率が99.6%ですので同じ様な傾向を表しています。



Q2. 飲料水の供給元

あなたのご家庭で主にお使いの飲料水(調理用、飲用)を教えてください。

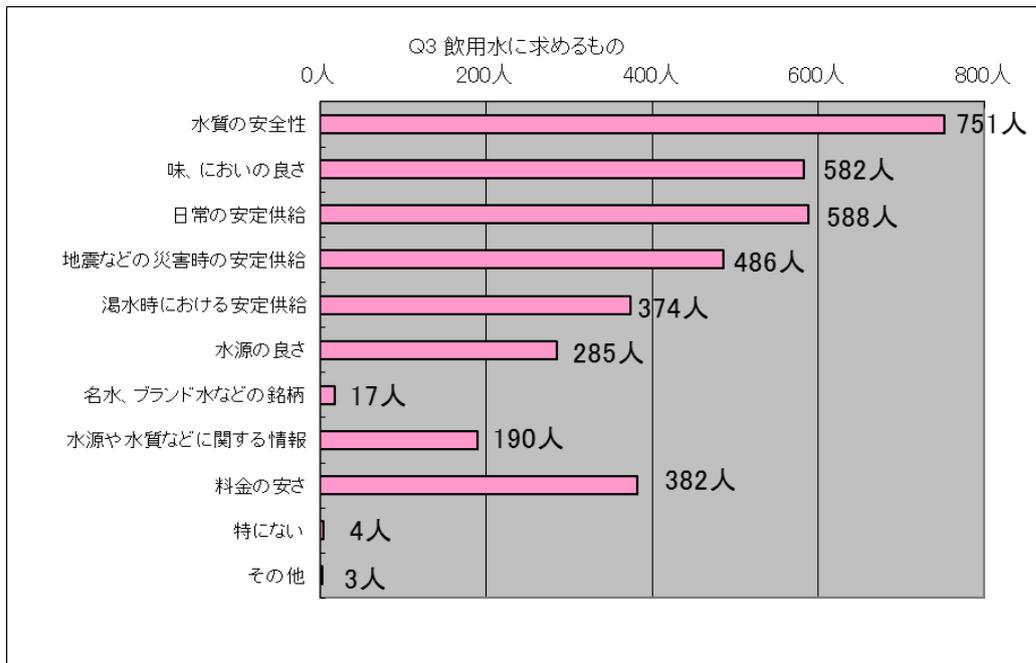
〈水道水〉との回答が89.4%の683人でした。〈井戸水〉との回答が1.2%の9人、〈湧き水〉との回答が0.8%で6人、〈ペットボトル等〉との回答が8.2%で63人でした。



Q 3. 飲料水に求めるもの

あなたがお使いの飲料水に求めるものはどのようなことですか？
 (複数回答可あり)

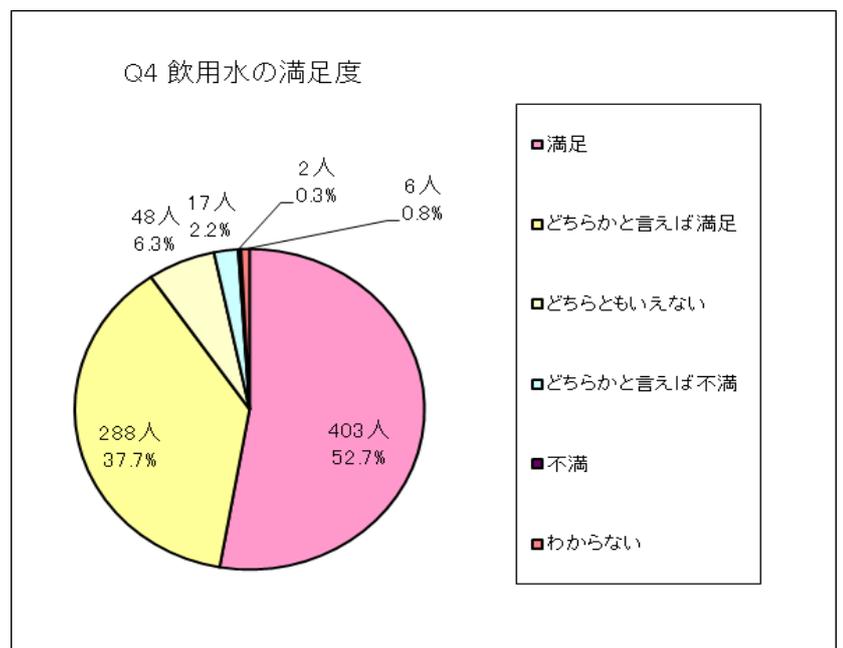
回答者 764 人の内 98.3% の 751 人の方が〈水質の安全性〉を挙げています。次に〈日常の安定供給〉には 77.0% の 588 人、〈味、においの良さ〉には 76.2% の 582 人、〈地震などの災害時の安定供給〉に 63.6% の 486 人、〈料金の安さ〉には 50% の 382 人、〈湯水時における安定供給〉には 49.0% の 374 人、〈水源の良さ〉には 37.3% の 285 人、〈水源や水質などに関する情報〉には 24.9% の 190 人の方が回答されています。



Q 4～Q 5. 飲料水の満足度

あなたがお使いの飲料水は、
 安定的に供給され、安心して使
 えますか？

〈満足〉との回答が 52.7% の 403 人の方が、〈どちらかと言えば満足〉との回答が 37.7% の 288 人と回答者の 90.4% を占めています。



〈不満〉との回答は0.3%の2人で〈どちらかと言えば不満〉との回答は2.2%の17人、〈わからない〉との回答が0.8%の6人でした。

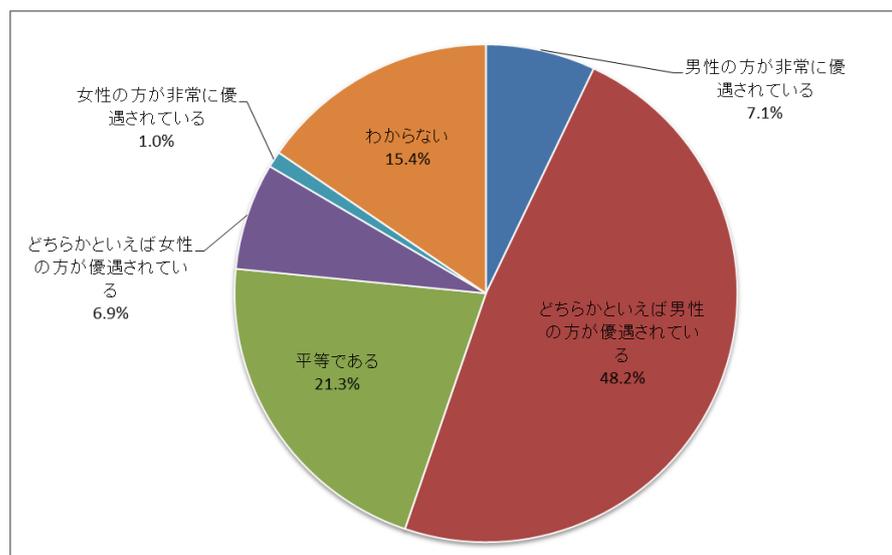
〈どちらともいえない〉との回答は6.3%の48人でした。

また、「不満」「どちらかと言えば不満」と回答された方に対し、Q5でその理由をたずねたところ、主な自由意見は「料金が低い」「味が悪い」「濁りがある」でした。

Q6～Q7は、社会全体における男女平等についての設問です。

Q6. 男女平等について（社会全体）

あなたは、社会全体で、男女の地位が平等になっていると思いますか。



「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方の割合は、55.3%、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答された方の割合は、7.9%となっています。ちなみに、平等であると回答された方の割合は、21.3%となっています。

また、「平等である」「わからない」以外を回答された方に対し、Q7でその理由をたずねたところ、主な自由意見は次のとおりでした。

（「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）

- ・職場での昇進・給与等において男性の方が優遇されている
- ・男性管理職が多い
- ・女性の方が家事や育児・介護を多く担っている など

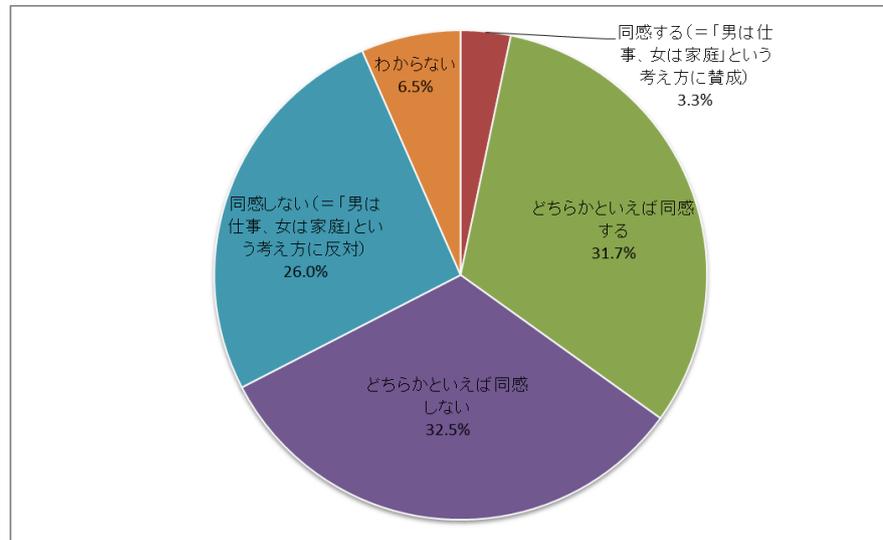
（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）

- ・能力があるにも関わらず、女性は地域の当番的な役職が免除されることが多い
- ・女性の社会進出についてばかり取り上げられている
- ・女性限定のサービスなどで女性の方が優遇されている など

Q 8 は、固定的役割分担意識や性別意識についての設問です。

Q 8. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。



「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しない(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」、「どちらかといえば同感しない」と回答された方の割合は 58.5%と半数以上となっています。

Q 9 は、男女共同参画の推進についての設問です。

Q 9. 男女共同参画の推進について

今後、男女共同参画を推進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(2つまで回答可)

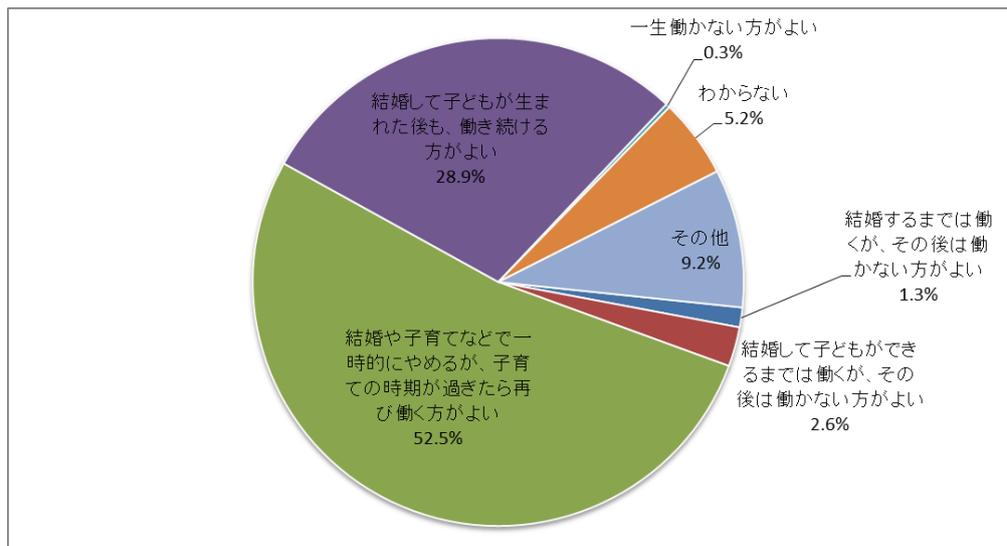
合計	1396 (764)	%
女性の意識改革	219	28.7%
男性の意識改革	401	52.5%
女性の家事・育児の負担軽減	193	25.3%
男性の家事・育児への参画	198	25.9%
長時間労働の是正	222	29.1%
女性が自らの能力を高める機会の提供	89	11.6%
女性の参画を進める必要はない	9	1.2%
その他	35	4.6%
わからない	30	3.9%

今後、男女共同参画を推進していくために必要なことについては、「男性の意識改革（52.5%）」、「長時間労働の是正（29.1%）」、「女性の意識改革（28.7%）」を選んだ方の割合が高くなっています。

Q10～Q11は、女性の働き方についての設問です。

Q10. 女性の働き方について（考え方）

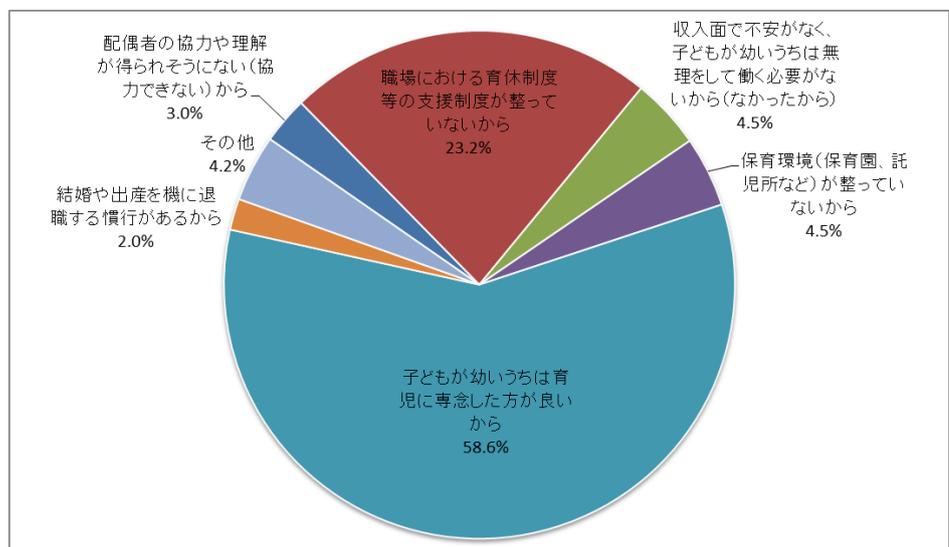
あなたは、女性が働くことについて、どのようにお考えですか。



「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び働く方がよい」と回答された方の割合が52.5%と最も高くなっています。

Q11. 女性の働き方について（理由）

Q10で「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び働く方がよい」を選択された方におたずねします。なぜ、そのように考えますか。



Q10で「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び働く方がよい」と回答された方に対し、その理由をたずねたところ、「子どもが幼いうちは育児に専念したいから（専念した方がよいから）」を選んだ方の割合が、58.6%と最も高くなっています。